

## 2020年度基本計画書

### 経営理念

心の中に心を持ち、人に心を運び心を伝え、五つのわ（和、輪、我、笑、話）の調和を図る

### 事業方針

1. 施設の社会化に努める
2. 心と心が触れあう信頼の場に努める
3. 豊かで安らぎのある健やかな生活が保障されるよう努める
4. 老人福祉施設として生活援助機能の強化に努める
5. 自立支援機能の強化に努める

### 行動指針(ケア方針)

#### 4H・4Cの実践

|        |          |               |                  |
|--------|----------|---------------|------------------|
| Heart  | 心を磨く     | Communication | 情報を的確に捉え伝える      |
| Head   | 知識・理解を磨く | Contact       | 接触・接近を図る         |
| Hand   | 技法を磨く    | Conference    | 会議・協議・相談を図る      |
| Health | 健康を磨く    | Care          | 心を配り・心を寄せる・見守を図る |

### 中期目標（3年）2020.4.1～2023.3.31

- ・社会環境変化へのソーシャル機能展開（制度政策の地域社会に反映する機能の取り組み）
- ・サービス開発の取り組み（地域社会への支援と連携、専門機関との橋渡し機能の構築）
- ・事業、サービス運営展開力構築の取り組み（チーム＜多職種と個人＞の向上）

### 長期目標（10年）2017.4.1～2027.3.31

- ・安全、衛生、防災対策の整理・整備（自然災害、感染症、事故対策）
- ・トータルコスト整理、管理対策整備（社会保障制度改正への対応）
- ・介護サービス機能の整理・整備（医療・保健・福祉・介護と地域社会との連携）

### 2020年度基本方針

物事をなす（就す・済す・成す）関わりをする（4H・4Cの実践）

- 就す — 自らの仕事や役割を知りものごとに関わり行うこと
- 済す — ものごとを整え仕上げる関わりをすること
- 成す — ことを成し遂げ結果をだす関わりをすること

### 社会福祉法人報徳会 重点施策

- \* 基盤になる機能・体制構築の取り組み
  - ・事業組織力の醸成 ・ひとりひとりの専門性（社会性）への取り組み
  - ・事業及びサービスの構造構成を機能として支援する取り組み
- \* サービスの自己管理対策
  - ・サービス自己評価、他サービス機関からの事業評価（ひと・もの・サービス・じかん）検証
  - ・サービス標準化（全体・部門）と専門性並びにサービスの整合性への取り組み
- \* 情報共有
  - ・各サービス連携のための記録様式類共通化、情報連動化の再分類
  - ・業務連携のためのサービス項目の整理共有
- \* 実施対策の取り組み
  - ・リスクマネジメント範囲の整合
  - ・地域密着型介護サービス外部評価、介護サービス情報公表制度、福祉サービスの第三者評価、認証評価活用による外部公開の取り組み
  - ・防火安全対策及び事業継続計画の構築
  - ・運営基準の基づく内部監査体制の構築

**重点目標** サービスと生活の垣根をつなぐ、介護機能を地域社会へ展開する

**重点事項** 物事をなす（就す・済す・成す）サービスを提供する

## ＜法人事務局 ・ 事業支援機関＞

### ＜総務グループ＞

#### 重点目標

- ・利用者のご家族、職員から信頼を得るため、職員が働きやすい環境を造り、業務の正確性と効率化を図る

#### 重点事項

- ・業務を正確に進めるための事務室内環境整備と業務の効率化を労務管理や物品管理のソフト活用を図る
- ・日々、週間、月間、年間業務を整理し業務を見える化し、連携を取りやすくし業務を計画的に進める

#### 業務運営

会計経理業務、庶務業務、人事労務業務の運営管理

理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、地域密着型サービス運営推進会議、第三者委員会  
総務グループ会議

### ＜給食グループ＞

#### 重点目標

- ・利用者ひとりひとりの病態や嗜好を活かし、栄養状態の維持・向上を図る

#### 重点事項

- ・利用者ひとりひとりの状態を知るために、栄養アセスメント・嗜好調査を行う
- ・PDCAサイクルを展開し、部門内、多職種と共同で問題の改善に取り組む

#### 地域交流、施設機能開放

栄養士給食施設実習

#### 業務運営

栄養管理業務、衛生管理業務、調理管理業務

給食グループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

## 黒石特別養護老人ホーム

### ＜特養事業部 介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業＞

#### 重点目標

- ・適切な時期（とき）に適切なケアを提供することにより、利用者、家族、職員、三方の安心・安全につながる介護・看護・生活支援を展開する

#### 重点事項

- ・利用者ひとりひとりの「生活」を意識し、生活や生活活動を理解して必要な支援を組み立てていく
- ・ノーリフティングケアを取り入れ、安心、安全、安楽な介護技術を提供する

#### 行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会

活動 ドライブ 運動会 ショッピング よされ・ねぶた 餅つき 節分 雪だるま作り

#### 地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、訪問理容、訪問販売、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習  
インターシップ、職場体験など

#### 業務運営

特養事業部会議、ユニットグループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

#### その他

健康管理（体重測定）（健康診断、結核検診、予防接種）要介護認定調査 長谷川式スケール調査  
日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者） 各アセスメント・モニタリング

## 黒石デイサービスセンター

### <在宅事業部 通所・訪問介護・介護予防・日常生活総合事業・福祉事業>

重点目標 ・利用者の生活につながるサービスを提供し、必要とされる場所、存在となる

重点事項 ・ひとりひとりに興味を持ち、思いや変化に気づき、思いやりをもって一声掛け瞬時に行動に移す

#### 行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会

活動 ドライブ、運動会、夏祭り、外出活動、十五夜おもち作り、ショッピング、  
新年餅つき、節分（豆まき）、ひな祭り、お菓子作り

#### 地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、散髪ボランティア、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習  
インターシップ、職場体験など

#### 業務運営

在宅事業部会議、ユニットグループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

#### その他

健康管理（体重測定） 長谷川式スケール調査 日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者）

機能訓練計画見直し 各アセスメント・モニタリング

## 黒石在宅介護支援センター

### <総合ケアマネジメント機関 居宅介護支援・介護予防ケアマネジメント事業>

#### <地域包括ランチ機関>

重点目標 ・PDCAサイクルを実践し、法を遵守したケアマネジメントの展開を図る

重点事項 ・法に則って作成したツールを使用し、限られた時間で計画的に業務を行う

#### 地域交流、施設機能開放

介護支援専門員実務講習受講者等実習、社会福祉士実習、担当地区民生児童委員定期交流、サロン  
運営支援業務運営、介護予防・日常生活支援総合事業（介護予防支援、介護予防ケアマネジメント、  
介護予防・生活支援サービス支援）

包括的支援事業（総合相談、権利擁護、黒石市地域包括支援センター運営協議会）（認知症総合支  
援、認知症集中支援、地域ケア会議推進事業「定例勉強会」「連携会議」「ケース検討会議」）

一般介護予防（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）、（転倒骨折予防、認知症予防教室）

#### 黒石市任意事業

認知症高齢者見守事業、在宅要介護高齢者紙おむつ支給券交付、成年後見制度利用支援、福祉用具・  
住宅改修支援、認知症サポーター養成、地域自立生活支援）

要介護・要支援認定・基本チェックリスト関連（認定調査、認定管理）

介護予防サービス計画、介護予防ケアマネジメントの業務（予防給付、総合事業）

#### 居宅支援関連

（相談受付・実態調査業務、調整業務、各アセスメント・モニタリング、ケアプラン管理・付帯管理  
手続業務、サービス担当者会議（カンファレンス））

#### その他

総合相談窓口（医療、保健、福祉サービス連絡調整）、地域ネットワークの構築・強化、地域密着  
型サービス運営推進会議、居宅機関会議、総合ケアマネジメント機関会議、他法人居宅介護支援事  
業所との共同事例検討会

## 養護老人ホーム景楓荘

### <養護事業部 養護・特定施設入居事業>

- 重点目標 ・利用者が残存機能に気づけるアプローチを実践し、生活機能の維持を図る
- 重点事項 ・ヒヤリハットを意識した関わりをする（4Cの実践）
- ・口腔機能、機能訓練、余暇活動を継続的に取り組める仕組み作りと、利用者が生活の場面で自発的に動ける環境設定、ルール設定をする
  - ・ケア検討時、ICF（環境因子、個人因子）を意識した協議をする

#### 行事、日常生活支援

- 行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会、慰霊祭、墓参り
- 活動 ドライブ（春・秋）、運動会、ねふた・よされ見学、餅つき、節分、花・畑作り  
音楽、手工芸、絵手紙、書道クラブ、カラオケクラブ、すこやか体操、大相撲星取り、

#### 地域交流、施設機能開放

- 訪問理容、訪問販売、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習  
インターシップ、職場体験など

#### 業務運営

- 養護業部会議、ユニットグループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

#### その他

- 健康管理（体重測定）（健康診断、結核検診、予防接種）要介護認定調査 長谷川式スケール調査  
日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者） 各アセスメント・モニタリング

## 黒石ケアサポートセンター

### <地域事業部 認知共同生活介護・小規模多機能事業>

- 重点目標 ・ひとりひとりのニーズに応じたケアを実践し、利用者、家族、職員が互いに支え合い、主体性を尊重し生活の広がりを目指した支援をする
- 重点事項 ・行動・心理症状へのアセスメント視点と評価を強化し考察をすることで、相手の思い、考えを察した実践力に結びつけていく
- ・利用者の状態像別に環境を見直すことで利用者が自発的に行動できる、今できることを最大化する支援を実践する
  - ・ひとりひとりが家族支援、法人、地域の求める役割を意識し行動する

#### 行事、日常生活支援

- 行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会、慰霊祭、墓参り
- 活動 お菓子作り、お花見、花・畑作り、ショッピング、「わ」の食堂  
ねふた・よされ見学、餅つき、節分、参拝ドライブ、雪だるま作り、外食会

#### 地域交流、施設機能開放

- 認知症介護実践者・リーダー・開設者・管理者研修施設実習  
介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習 インターシップ、職場体験など

#### 業務運営

- 地域事業部会議 ユニットグループ会議 地域事業部ミーティング  
サービス担当者会議（カンファレンス） 運営推進会議

#### その他

- 健康管理（体重測定）（健康診断、結核検診、予防接種）要介護認定調査 長谷川式スケール調査  
日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者） 各アセスメント・モニタリング

## 委員会・職域・機関・プロジェクト

### < リスクマネジメント委員会 >

1. 構成メンバー 工藤晋也 三上昭弘 船水亮徳 吹越智美

#### 2. 目的

利用者が安全に生活できるよう、事故発生の防止及び発生時対応の指針に基づき、法人全体での共通施策を策定する。また、ケアサービスにおけるリスクマネジメントの意義について理解を深め、事故ヒヤリハットの検証方法を確立させ、SHELL を活用し多方面での視点を持てるよう啓発を行い、事故防止・再発防止に取り組む

入所者・利用者・職員の安全確保を図るために、菌を持ち込まない、広げないを全職員で徹底し、未然に防止し感染症・衛生・食中毒の予防をする

3. 期間 2019年4月1日～2020年3月31日

#### 4. 内容

- ・事故・ヒヤリハットの検証
- ・身体拘束廃止に関するチャートの整備
- ・第三者委員会開催（年2回）
- ・内部研修（年2回）
- ・職員ひとりひとりの衛生管理意識の徹底を図り、感染症の発生を防止するよう委員会活動し、専門性の高いサービスを提供支援

#### 5. 成果

- ・感染衛生対策の各チャート、手順書を見直し、整備（高齢者介護施設における感染対策マニュアル2019年3月改訂版、感染症状初動連絡方法、感染予防期及び発症から解除まで）
- ・法人内研修について
  - リスクマネジメント 苦情対応について総合ケアマネジメント機関と合同で実施（1回）
- ・感染衛生対策 初期対応から終息までの流れについて実施（1回）
- ・身体拘束 3ヶ月に1回、各事業部会議内で実施（年4回）
- ・第三者委員会 年2回（7月・2月）開催
- ・採用者オリエンテーション

リスクマネジメント内容に感染衛生対策の内容を追加して実施

- ・感染症動向の周知方法を変更、週1回の集会内で継続的発信

#### 6. 課題

- ・リスクマネジメント委員会と感染衛生対策委員会が統合したことから各2回ずつ研修を実施、年4回の研修開催がままならず、研修内容の整備調整を図る必要がある
- ・研修内容、方法を振り返り、検討し、感染期間に入る期間前での感染に関わる研修の実施
- ・実地指導により、身体拘束に関するマニュアル不備があったため、内容を再確認し、整備が必要
- ・事故・ヒヤリハットの集計や事業部からの課題発信の共有が図れず、また、委員会側から提言する機会を作れなかったため、検討方法、施策に不足を生じないよう運用を図る必要がある
- ・連絡メールの運用が徹底できていないため、利用、発信方法を再確認する必要がある

#### 7. 事業計画

- ・事故対策防止の取り組み及び研修の実施
- ・身体拘束に関する取り組み及び研修の実施
- ・感染衛生対策、連絡メールの運用
- ・第三者委員会（2回）実施

### < 研修委員会 >

1. 構成メンバー 海老名みゆき 雪田栄子 石澤利圭 須藤麻美

#### 2. 目的

ひとりひとりの専門性及び社会性の構築、チーム力の醸成ならびに展開力の構築、職員ひとりひとりが果たすべき役割を理解し行動すること、そして、一定で質の良いサービス提供が展開できるよう研修・実習体系を整備し、法人全体が共通した人材育成に取り組む環境と、運用チェックを図る

3. 期間 2019年4月1日～2020年3月31日

#### 4. 内容

- ・新研修体系の運用チェック機関としての調整

- ・講座全体の計画と運用チェック機関としての調整
5. 成果
    - ・ハートフルアカデミー「わ」基礎講座を年4回開催、内容を「チーム」というワードを共通とし、目的がズレないように内容のつながりと落としどころを開催後のたびに見直している
    - 受講人数は開催から3年にして7割の職員が受講、また、受講者の振り返りを事業部へ渡すことでフォローアップや人事考課に活かすようにつなげている
  6. 課題
    - ・オリエンテーションの実施は、手順書（入社後1週間以内に実施）に準じた開催が人数調整のため、1ヶ月後の開催となり、入社から1ヶ月以上の期間が空くこととなっており、事業部でのオリエンテーション内容の追加事項を準備する必要がある
    - また、オリエンテーションの振り返りを事業部に返しているが、オリエンテーションの内容のフィードバックまで至っていない
    - ・基礎講座の受講に職種の偏りがあり、看護、管理、給食の参加率が低いため、受講しやすい日程の調整が必要、また、オリエンテーションの振り返りを事業部に返しているが、オリエンテーションの内容のフィードバックまで至っていない
    - ・施設内研修について、今年度から、開催者、チェック機関、主催者を区別して運用したが、階層別、昇格関連については整理途中だった
    - ・法的要件に沿って運用できているかのチェックに甘さがあった。また、開催できていない研修もある（認知症ケア研修、専門講座）
    - ・研修開催から報告書との返却、申請書と資料保管整理と管理が滞っており、事業管理部と協議し手順書の修正を図る必要がある
    - ・外部研修の受講申請率が低く具体的な働きかけの検討が必要（自己啓発のための外部研修受講への発信）
  7. 事業計画
    - ・施設内研修全体の運用チェック
    - ・自己啓発に向けた外部研修や自ら学ぶことの働きかけと発信

## < 職域部会 >

1. 構成メンバー 白戸富士子 大寺亜沙美 今 光子 菊地 望 白鳥麻衣子
2. 目的
  - ・各職域部会の各課題や共通課題の洗い出し、現状把握、課題抽出、課題提起
3. 期間 2019年6月1日～2020年3月31日
4. 内容
  - ・現状把握、課題抽出、課題提出を通じた、仕組みづくりと連携
5. 成果
  - ・食事せんを11月から1事業部ごとに導入と試用期間を設定し評価しながら実施
  - ・実習プログラムについて、インターシップから職域ごとの基本とするプログラムの整備を図り、受入から終了後評価までの工程と様式をみえる化し、事業部と連携し運用につながった
  - ・職域部会の方向性（修正）について、現状把握や課題抽出、課題提起を通じて、事業部や各部会や機関と連携しながら、仕組みづくりを図る役割の再認識を図った
6. 課題
  - ・食事せん運用の仕組みづくりの継続的に必要、各事業部と評価した内容を現状実施レベルへ反映を図る
  - ・実習プログラムの本格的運用（指導者や担当者への橋渡し）
  - ・ケア項目区分別の視点を実践レベルで活用できる仕組みづくり
  - ・現状把握、課題抽出、課題提起のサイクル運用
7. 事業計画
  - ・職員ひとりひとりがケア提供の現状を知り、サービスの質の向上につなげるため、現状把握、課題抽出、課題提起を通じた仕組みづくりと定期継続化を図る
  - ・食事せん、実習プログラム、ケア項目区分別の運用本格化を図り、評価を継続する

## < 総合ケアマネジメント機関 >

1. 構成メンバー 佐藤由華利 信平和香子 須藤雅子 工藤恵子 菊地のぞみ 森山玲香  
船水亮徳 浅利文子 白鳥麻衣子  
田中良子 山谷弘子 菊地 望 佐々木孝顕
2. 目的 総合相談機能支援機能管理
3. 期間 2019年4月1日～2020年3月31日
4. 内容
  - ・総合相談の流れ、総合ケアマネジメント機能の確立
  - ・地域と繋がる実践事業の取り組み
  - ・入所意向確認から入所判定会議
  - ・お客様の声（苦情）、介護サービスアンケート、サービス改善について
  - ・ベットコントロール（稼働率）
5. 成果
  - ・総合相談の流れ（フローチャート）とサービス利用手続き確認表Ⅰの修正を重ねたことで、それに従い各相談員の対応が図れた
  - ・入所判定会議の持ち方を見直し入所系と在宅系に分け、定めた内容期日で実施
  - ・判定会議を重ねることで、専門的意見を出す機会となり多職種連携を図れ、困難ケース相談等もあり多職種支援の取り組みの理解となった
  - ・入所待機者の扱いの見直し、入所受付受理の案内と入所意向調査依頼書を整備し、送付手順も整備した
  - ・介護サービスアンケートの内容や実施方法を見直しご家族の意向や意見反映に取り組み、求めた内容に率直な言葉で頂戴することができた
  - ・各事業部の稼働率確認が定着し、他機関に毎月実績を届けることを続け、関係構築を図った
  - ・各地域団体の定期訪問（民生委員、住民サロン支援など）は定着が図れた
6. 課題
  - ・作成物や調整内容を進める人選や役割調整、整備が不足し、一定の職員だけで行ったため、遅れが生じている
  - ・利用相談から終了の流れや判定会議を見直したが、運用は一部の職員に限られており、担当する者全体に十分に理解されていない
  - ・稼働率、基準値の見直しによる利用者案内の促進に向けた内部・外部へのアプローチが不足である
  - ・見直しした内容、事項について、流れが定められた運用展開を図る必要がある
  - ・サービス開発の展開まで至らなかった
7. 事業計画
  - ・総合相談窓口と機能運用の安定継続（多職種協働で支援する取組）
  - ・サービスの一般化（苦情や介護サービスアンケート、地域からの声）
  - ・サービス課題改善と実施

## < 広報活動支援機関 >

1. 構成メンバー 畠山早紀子 田川義則 池田 静 菊池 ひとみ 山口由佳子
2. 目的 事業活動周知広報
3. 期間 2019年4月1日～2020年3月31日
4. 内容 五つの「わ」の広報企画、作成、HP運営
5. 成果
  - ・構成表の修正  
これまで発行していた広報誌の内容を、各事業部、委員会、職域、プロジェクトと、法人をより知っていただける内容にするため変更し、紙面の構成表を変更している
  - ・アンケートの実施  
利用者、ご家族様に広報誌を知っていただくためのアンケートを実施  
職員に対して同様のアンケートを11月に実施し内容の確認と集計
  - ・事業化プロジェクトのホームページへの公開  
さぽーたーずくらぶ「Heart」、「わ」のカフェ開催日や内容について発行  
ホームページ掲載の作成方法について、手順書を整備

## 6. 課 題

- ・各作業項目のフローや手順の整備不足  
アンケート調査の計画的実施と内容の構成検討
- ・事業化プロジェクトの情報公開内容の整備
- ・ホームページ掲載の作成方法の手順書の再整備
- ・ご家族様専用観覧ページの毎月更新する体制作り
- ・ホームページの活用促進への整備

## 7. 事業計画

- ・ホームページ更新手順の操作習得と定期更新
- ・広報誌、法人のパンフレット作成
- ・広報誌の頁別内容項目の整理

## <「わ」のカフェ>

1. 構成メンバー 佐々木明子 齋藤美子 佐藤久子 栗嶋 緑 三上昭弘 齋藤亜也子

2. 目 的 認知症高齢者、家族、住民への認知症への理解と支援（地域貢献）

3. 期 間 2019年4月1日～2020年3月31日

### 4. 内 容

- ・周知活動（チラシ、ポスター作成、広告誌掲載など）
- ・年間運営計画作成、実施、評価検証

### 5. 成 果

- ・周知活動  
各公民館・市役所・地元の温泉へのポスター掲示や法人のホームページに掲載したことで、それを見て参加した方が5名程参加される  
包括支援センターや社会福祉協議会の協力を得て市報への掲載や「健康作り市民の集い」でチラシを設置、六郷地区民生委員にも各個へチラシ配布の協力をいただき、新規の参加へ繋がった
- ・年間運営計画作成、実施、評価検証  
会議の構成や事務局の環境整備・各様式とデータの整備

## 6. 課 題

- ・運営計画や評価検証不足にて、認知症カフェの展開不足
- ・認知症カフェ内容が講座が主となっており、本来の目的である「認知症を抱える本人・家族の参加」に至っていない
- ・認知症地域支援推進員（包括支援センター）やさぽ一た一ずくらぶとの連携不足

## 7. 事業計画

- ・運営計画の明確化と共有、評価検証の実施
- ・認知症を抱える本人・家族への周知活動の検討
- ・移動カフェの実施

## <さぽ一た一ずくらぶ「Heart」>

1. 構成メンバー 太田千尋 森山玲香 今 菜穂 小野和江 畠山早紀子 菊地のぞみ  
竹内彩花 石岡栞奈 佐藤 栞

2. 目 的 地域社会、世代間交流の促進、法人の事業の理解と相互、共助、自助の支援（地域貢献）

3. 期 間 2019年4月1日～2020年3月31日

### 4. 内 容

- ・さぽ一た一ずくらぶ概要整理
- ・周知活動計画作成 定着化

### 5. 成 果

- ・さぽ一た一ずくらぶの活動実施に向け、規約、会員登録、年間活動について検討し、詳細を決定
- ・年間予定表の整備作成
- ・周知に関係するチラシの構成、掲載内容の整備
- ・周知活動のイベント開催、法人の行事の際、家族や関係者に内容紹介を図る
- ・作業項目、フローの整備により「わ」ど「な」の通信の定期的発行



## 6. 課題

- ・継続的参加に向けた方法について検討
- ・外部専門職への協力依頼
- ・受け入れ時の内部体制の整備
- ・特典内容の拡大と内容整備
- ・さぽーたーずくらぶ「Heart」会員やボランティアに来ていただく方への目的理解の発信

## 7. 事業計画

- ・さぽーたーずくらぶ「Heart」会員登録から活動当日受け入れまでのスムーズな実施体制整備
- ・外部協力者の拡大にむけた活動
- ・会員やボランティアへの広報方法の見直し
- ・子ども参観日
- ・「わ」ど「な」の感謝フェア